

第3章 地域福祉計画に関わる課題

地域福祉に関するアンケート調査の結果、地域支え合い会議等から、地域福祉に関わる吉賀町の課題を整理します。

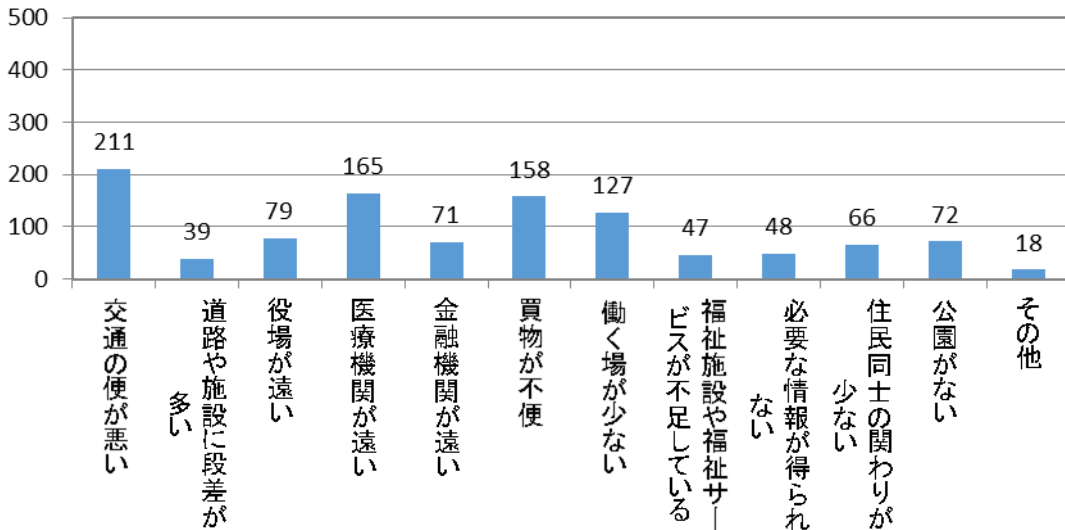
1. 移動手段確保困難者の暮らしやすさの向上

それぞれの世代での暮らしにくい順位は、次のとおりです。

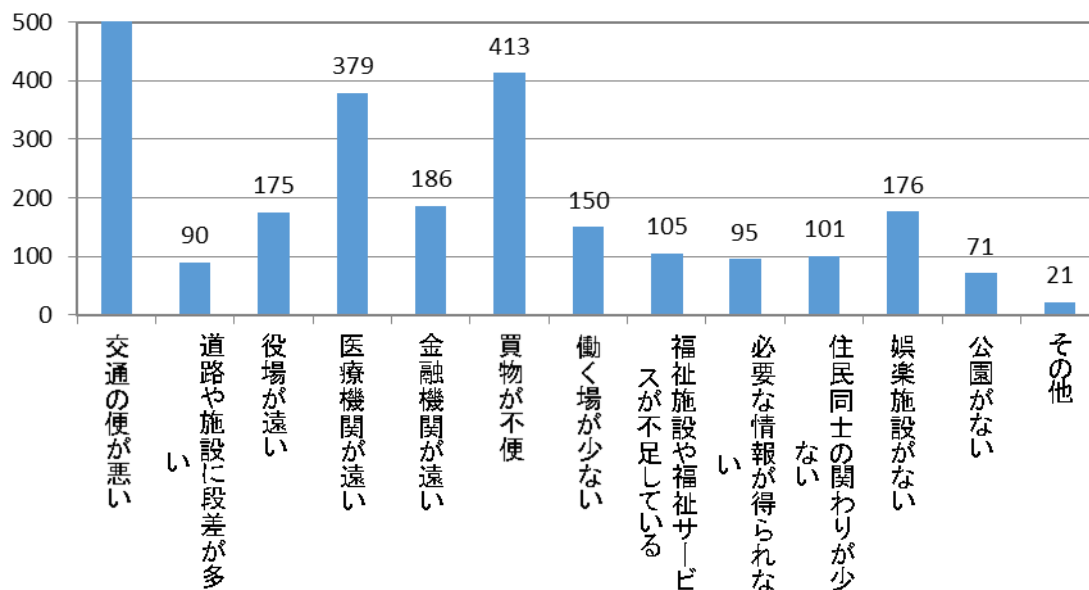
○子育て世代	○高齢者	○障がい者
1位 交通の便が悪い	1位 交通の便が悪い	1位 交通の便が悪い
2位 医療機関が遠い	2位 買い物が不便	2位 買い物が不便
3位 買い物が不便	3位 医療機関が遠い	3位 医療機関が遠い

前回の調査と大きな変化はなく、各世代を通して、交通の便の悪さが共通課題となっています。高齢化や障がい等により自分で移動手段の確保が困難な人が増加しており、このことが買い物や通院などにも影響し、障がい者や高齢者が、住みなれた地域での生活を続けるうえで不安感や不便さを感じる要因となっています。前回の調査で子育て世代で2位だった働く場が少ないという回答が今回は減少となっています。

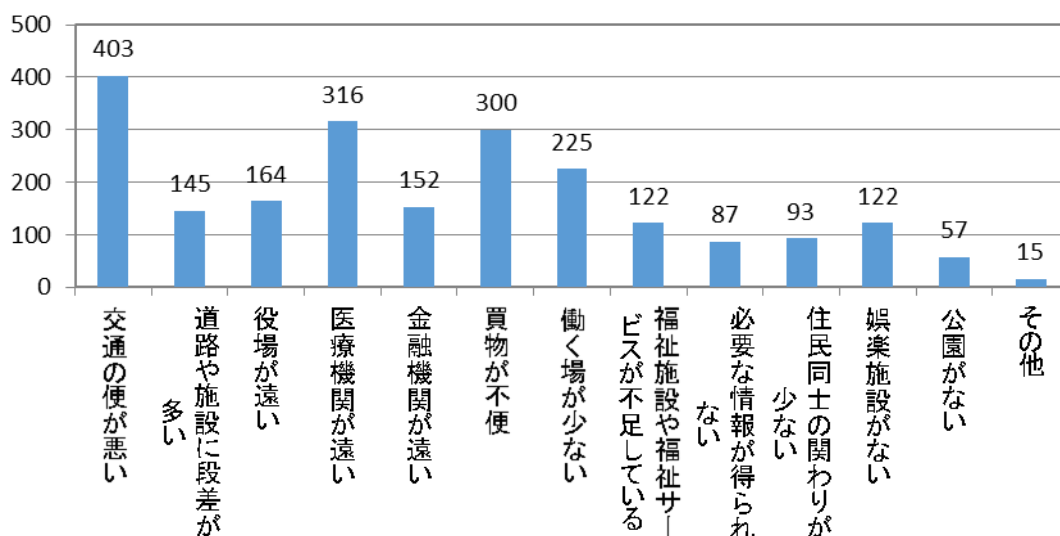
問 13 子育て世代にとって暮らしやすいと思わない理由はなんですか。
(複数回答)



問 15 高齢者にとって暮らしやすいと思わない理由（複数回答）



問 17 障がいのある人にとって暮らしやすいと思わない理由（複数回答）



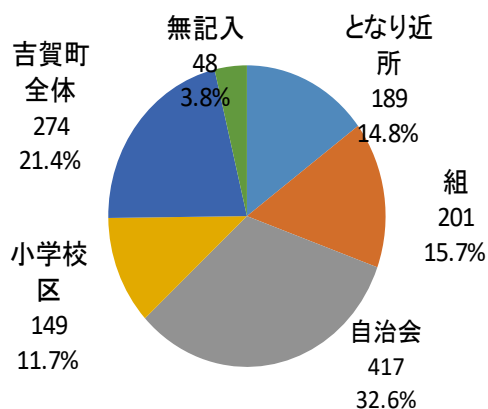
2. 近所付き合いの減少によるつながりの希薄化や相談相手の減少

近所との付き合いがあると回答した人は 58%で前回より 9%減少しています。「地域の中での問題点・不足していると思うもの」として「近所付き合いの減少」が 1 番にあがっています。住民は自治会以下の小規模の単位を身近な地域ととらえており、そのような中、地域への愛着を感じていると回答した人は 72%にのぼっています。

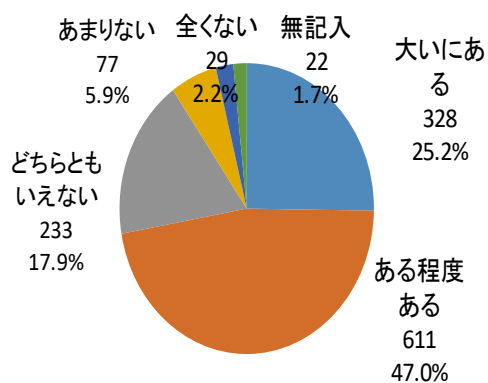
このことをふまえて、今後、意識して隣近所とのつながりを保ち続けると

ともに、その関係も希薄にならないように努める必要があります。

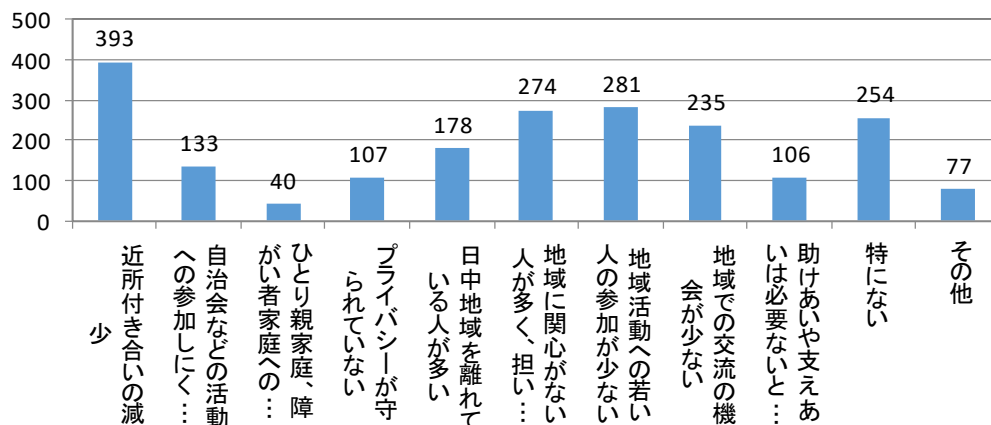
問 18 あなたの考える「地域」の範囲を教えてください。



問 19 住んでいる地域への愛着はありますか？



問 26 地域の中で問題点・不足していると思うものは何ですか？
(複数回答)



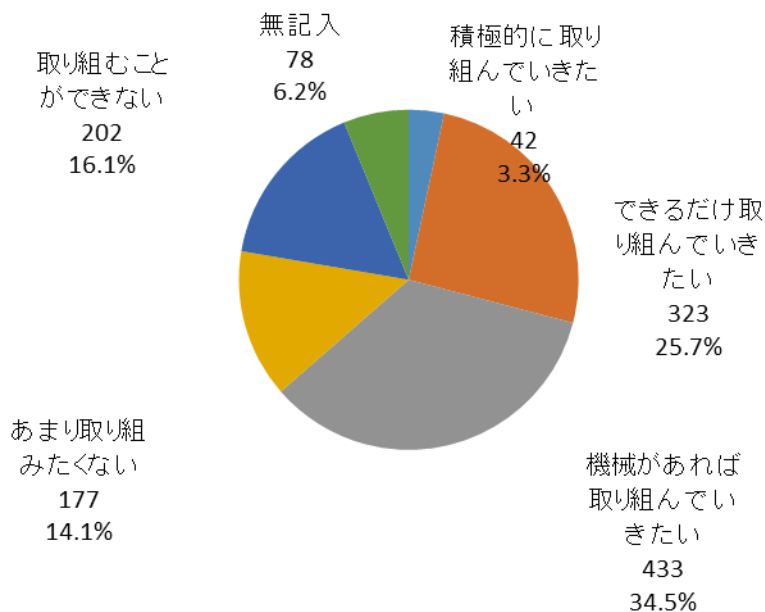
3. 地域活動組織

アンケート結果から、62%の人が、地域活動に取り組みたいという意向をもっており、前回調査から大きな変化はありませんでした。町内全域で住民主体のふれあいサロン等の活動や伝統行事がリーダーを中心に開催されており、健康づくりや介護予防の取り組みや、地域のつながりを強めるための大きな役割を担ってきているといえます。今後も、少数でも活動可能な場を作るなど、多様な地域活動のあり方を模索し、支援していく必要があります。

また、過疎化や少子高齢化や後継者不足などにより、実践者やリーダー不足も課題となっており、活動継続の手法を見直すことも必要です。

地域活動への取り組み

問 35. 地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか？



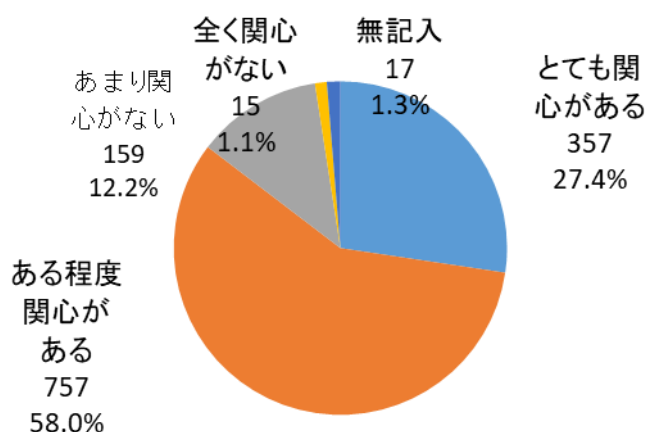
4. 生活に必要な福祉に関する情報入手

住民の福祉への関心は高く、サービスが充実していると回答した人が75%と前回と比べ約10%低くなっています。福祉サービスの周知度については、知らないと回答している人が46%となっており、前回調査と変わりがなく今後も周知のあり方の検討が必要です。

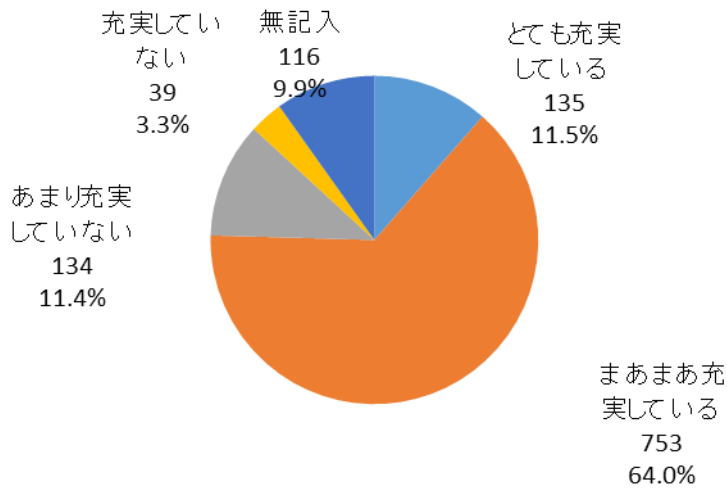
福祉サービスが必要な人に、適切な情報が伝わるようなしくみの整備について、今後考えていく必要があります。

福祉への関心

問 11. 福祉に関心がありますか？

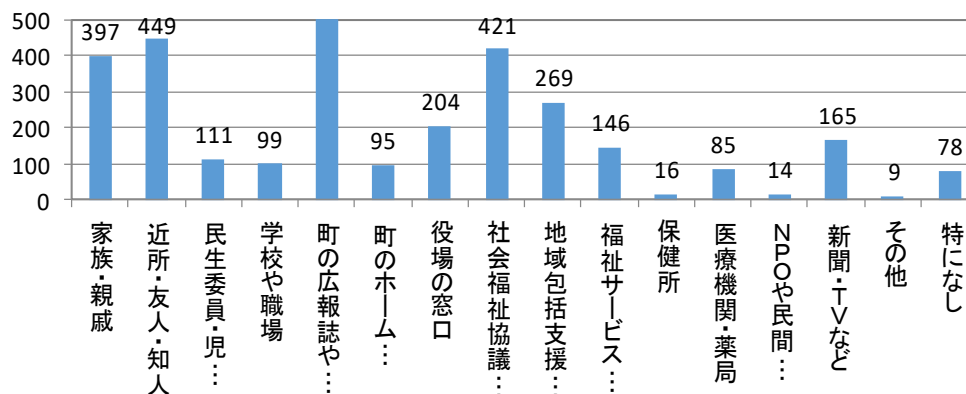


福祉サービスの充実



福祉サービスの情報入手

問 40. 福祉サービスに関する情報はどこから入手しますか（複数回答）

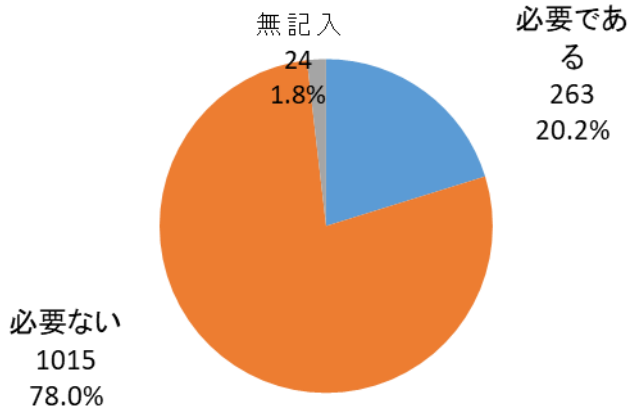


5. 災害時の避難等に必要な要支援者の把握や情報伝達

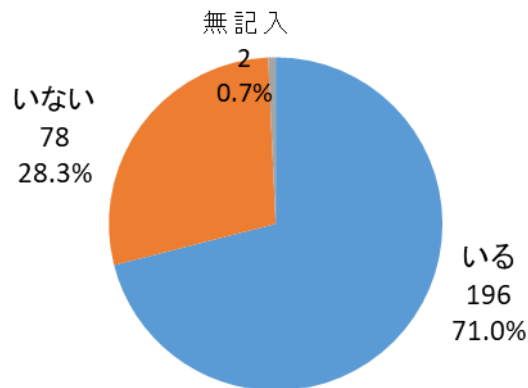
アンケートの結果、災害時に手助けが必要であると回答した人が、20%存在します。支援者がいないため避難できない人や地域においても近所づきあいの減少により、孤立化が進んでいます。緊急時の情報伝達は防災無線など音声による伝達が主になっており、聴覚障害者等への伝達方法が十分に整備されていない状況もあり今後の課題です。

災害時の手助け

問 23. 台風などの災害時の避難の際に、手助けが必要ですか？



問 24. 災害時の避難の際に、手助けをお願いできる人がいますか？

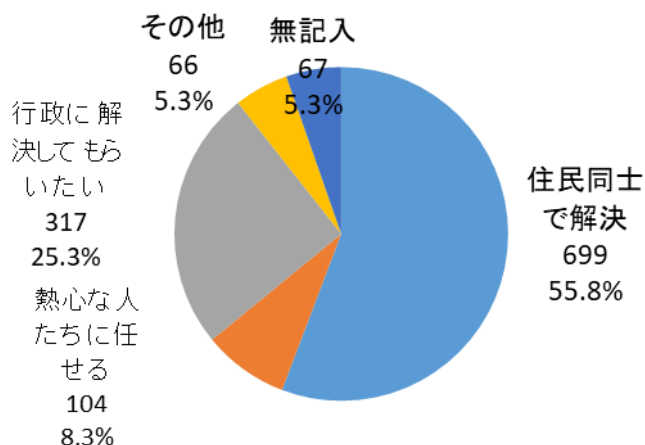


6. 地域の問題解決のための話し合いの場の確保

アンケートの結果、住民の生活問題については、自分たちで解決すべきと回答した人が55%いますが、困りごとなどを話しあう場がない、もしくは、わからないと回答した人は60%います。自治意識は高くても、解決のしくみが不足している状況が見られます。地域自治のしくみをどのように作っていくのが課題です。

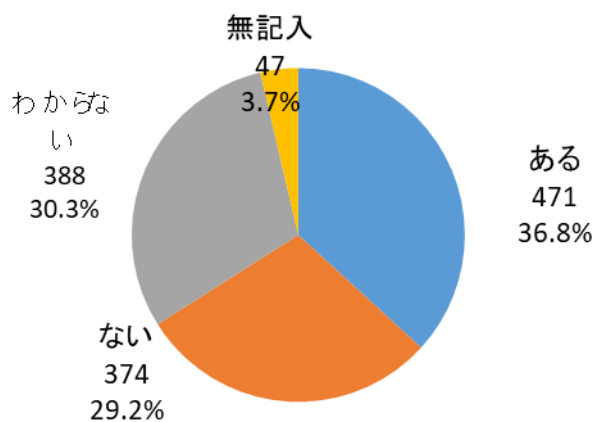
住民の自治意識

問 30. 生活に関する様々な問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか？



話し合いの場

問 27. 困りごとや課題について、地域の人たちと情報共有や話し合いのできる場がありますか？

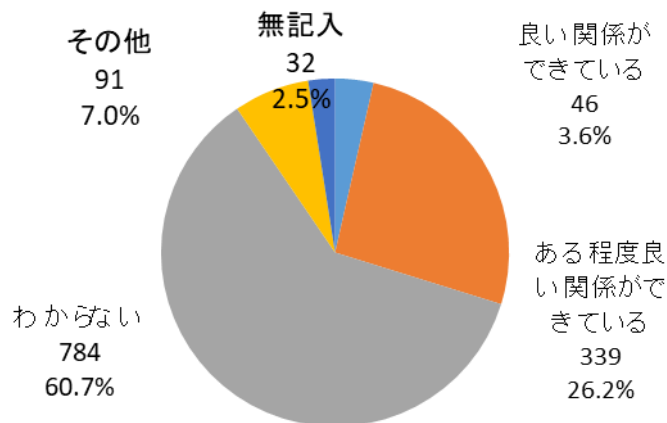


7. 協働について住民への周知や啓発が不足している。

まちづくりを進める上で、重要となる行政と住民との協働関係については、できていると回答した住民は29%に到達しています。一方、わからないと回答した住民は60%に達しており、協働のもつ意味や必要性がまだ十分に浸透していない実態が窺えます。

協働についての周知度

問 28. 住民と役場が協力して地域課題の解決を図るための良好な関係が築かれていると思いますか？



8. 暮らしの中の不安や悩みの解消

暮らしの中での不安については、「自分や家族の健康について」が1位となっており、健康づくりや介護予防の取り組みの充実が求められています。また若年層を中心に経済的不安を強く感じており、生活困窮者への相談支援の充実や実効性のある具体的対策が必要です。

暮らしの中での不安や悩み

問 22. 暮らしの中でどのようなことに悩みや不安を感じていますか？（複数回答）

